

機関番号：32508

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19251011

研究課題名（和文）

先住民をめぐる異化と同化の力学に関する人類学的研究

研究課題名（英文）

Anthropological research into alerity and assimilation of Indigenous peoples

研究代表者

スチュアート ヘンリ[本多俊和] (HONDA SHUNWA)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：50187788

研究成果の概要（和文）：

北米、北欧、オーストラリアを中心に、先住民をめぐる異化と同化について、先住民が宗主国の主流社会とどのように異化を表象しているかを追究した。生業活動、世界観、文学、博物館展示を対象とした調査成果に基づいて、異化の方法とそのダイナミズムを提示した。さらに、先住民集団同士、そして同一の先住民集団の中で生じている異化の力学についても成果を挙げることができた。

研究成果の概要（英文）：

We investigated how indigenous people of North America, North Europe and Australia dissimilate themselves from the mainstream society of the suzerain state. Based upon investigation results of subsistence activities, world view, literature and museum displays, we indicated the methods dynamism of dissimilation. Moreover, we investigated the dynamics of dissimilation occurring among indigenous people groups as well as within an indigenous.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2008年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2009年度	7,800,000	2,340,000	10,140,000
2010年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
年度			
総計	30,800,000	9,240,000	40,040,000

研究分野：文化人類学・民俗学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：主流社会 先住民(族) 力学 同化 国民国家 植民地主義 異化 表象

## 1. 研究開始当初の背景

今日、先住民族をはじめ、様々な社会集団の社会・文化の多様性を維持することの重要性が広く認められている。しかし、その一方

で、国家や国際社会の意志決定の具体的な場においては、その多様性を維持しつつも、多様な社会集団の間にコンセンサスをいかに形成するかということが大きな問題となっている

る (Ken Coates, A Global History of Indigenous Peoples; Struggle and Survival, Macmillan, 2004)。多文化主義を掲げる国家の意思決定の場はもちろんのこと、クジラをはじめとする絶滅危惧種の保護や環境管理、環境開発などの意志決定の場では、具体的な意志決定のためにコンセンサスを形成することは避けて通れない課題である。多様性の中のコンセンサスを実現するにはどうすればよいのかという課題は、国際社会や国家のレベルから、地域開発や地域的な環境管理の現場などの地域のレベルにいたるまで、あらゆるレベルにおいて共通に追い求められている課題である。

こうした多様性の中でのコンセンサスの形成という問題がもっとも顕著な点で現れている領域の一つが、国家の中の先住民と主流社会が国家制度をめぐる展開してきた先住民の広い意味での同化と異化の力学である。先住民を同化するのか、異化するのかは、16世紀からはじまり、19世紀から20世紀前半にかけて絶頂に達した列強による植民地支配では、支配か抵抗かをめぐって国家側からも先住民側からも必ず問題となった。植民地の現実はこの2つの力のせめぎ合いであったと言っても過言ではない(スチュアート・ヘンリ、「先住民の10年をふりかえって：協調と紛争」文化人類学研究 5:2-13, 早稲田大学文化人類学会, 2004)。さらに、1970年代以後に急速に進展した先住民運動によって先住民に対する認知が1990年代の「国際先住民の10年」として実り、先住民の権利をめぐる課題が国連の人権理事会で議論されている今日においては、先住民と国家の関係をめぐる同化と異化の課題は、開発、国家統合、国際合意など、多様性の中のコンセンサスの形成が重要となるあらゆる領域で課題となっている(Sille Stidsen, The Indigenous World 2006, IWGIA, 2006)。

## 2. 研究の目的

本研究では、国民国家と先住民の関係について、国家の主流社会に対する先住民社会の広い意味での同化(主流社会の経済や文化への先住民諸社会の埋没や統合)と、広い意味での異化(先住民諸民族による社会と文化の独自性の主張)の歴史と現状を焦点に調査し研究する。その目的は、先住民の社会・

文化の多様性を維持しつつ、国家や国際社会としてのコンセンサス(意志決定にかかわる多様な社会集団の合意)を形成し維持していくための理論と方法について考察することである。

## 3. 研究の方法

国家や国際社会の意志決定の具体的な場において、先住民をはじめ、様々な社会集団の社会・文化の多様性を維持しつつも、それら多様な社会集団の間にコンセンサスをいかに形成するべきかを明らかにするために、多文化主義を掲げる国家の意思決定の場、クジラをはじめとする絶滅危惧種の保護や環境管理の場、環境開発などの意志決定の場など、国際社会や国家のレベルから、地域開発や地域的な環境管理の現場などにおける地域のレベルにいたるまで、あらゆるレベルにおいて、共通課題を設定したうえでフィールド調査とインタビュー調査を行った。

## 4. 研究成果

先住民と国家の関係をめぐる同化と異化の力学に焦点をあて、その歴史と現状を調査研究することによって、多様性の中のコンセンサスを形成するという課題についての理論構築に貢献するとともに、そのための具体的な方策を模索した。研究対象とした国家の中の先住民と主流社会の関係の中でも、多様性の中でのコンセンサスという課題がもっとも顕著な点で現れている。たとえば、カナダのメイティおよびヌナブト準州のイヌイト、アラスカ州のイヌピアトが行なっている捕鯨活動、メキシコ政府の施策が先住民へ及ぼす影響、中国の少数民族政策、聖地の観光と開発をめぐる先住民と国家の関係が緊迫しているオーストラリア、気候変動の影響による資源開発問題で揺れているグリーンランド、カナダ・オーストラリア・ニュージーランド、米国という諸国(CANZUS)の先住民政策とは異なる北欧3カ国のサーミを対象に現地調査、そして北米先住民が自ら行なう文筆活動の文献調査を行なった。

それぞれ歴史的背景、現在の状況は異なるものの、先住民の異化と同化をめぐる課題が今現在、それぞれの地域の政治・経済・社会的な力学の中で、急速な展開をみている地域である。この研究では、こうした地域の先住民をめぐる異化と同化のせめぎ合いに

ついで以下のアプローチから調査、検討して多様性の中でのコンセンサス形成の問題を浮かび上がらせた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① スチュアート ヘンリ 2009 「イヌイットの犬樞文化」『家畜の文化』(秋篠宮、林) pp. 150-158、岩波書店、査読無
- ② スチュアート ヘンリ 2009 「先住民」『文化人類学事典』(丸善) pp. 172-145、丸善、査読無
- ③ スチュアート ヘンリ 2009 「先住民の歴史と現状」『「先住民」とは誰か』(窪田、野林 pp. 16-37、世界思想社、査読無
- ④ スチュアート ヘンリ 2008 「極北の民族イヌイトにみる経済開発と文化再生」『立教アメリカン・スタディーズ』30: 21-36 立教大学アメリカ研究所、査読有
- ⑤ 本多俊和 (スチュアート ヘンリ) 2007 「原住民運動十年回顧：合作与紛争」『中国農業大学学報』24 卷 69 期、pp. 129-137、中国農業大学、査読無
- ⑥ スチュアート ヘンリ 2007 「先住権と権原：先住民の基本的権利について」『失われる文化・失われるアイデンティティ』講座世界の先住民・第 10 卷、pp. 146-161、明石書店、査読無
- ⑦ スチュアート ヘンリ 2007 「北米先住民と都市」『失われる文化・失われるアイデンティティ』講座世界の先住民・第 10 卷、271-284、明石書店、査読無
- ⑧ 大村敬一 2011 「二重に生きる：カナダ・イヌイト社会の生業と生産の社会的布置」『グローバル化とく生きる世界』：生業からみた人類学的現在』(松井健・名和克郎・野林厚志編) 昭和堂、pp. 65-96、査読無
- ⑨ 大村敬一 2011 「< 社交の技術 > としての芸術：< 芸術 > と < 伝統文化 > を超えて」『現代社会と先住民文化：観光・芸術から考える②』(第 25 回北方民族文化シンポジウム報告書) 網走：北海道立北方民族博物館、pp. 49-54、査読無

⑩ 大村敬一 2010 「自然＝文化相対主義に向けて：イヌイトの先住民運動からみるグローバル化の未来」『文化人類学』75(1)：54-72、査読有

⑪ 大村敬一 2009 「イヌイトは何になろうとしているのか？：カナダ・ヌナヴト準州のIQ問題にみる先住民の未来」『先住民とは誰か？』(窪田幸子・野林厚志編) 世界思想社、155-178、査読無

⑫ 窪田幸子 2011 「アボリジニのローカルな歴史的経験とジェンダー」栗屋利江・松本悠子編『ジェンダー史叢書 7 人の移動と文化の交差』227-247 頁、明石書店、2011 年、査読無

⑬ 窪田幸子 2011 From Applied Anthropology to Anthropology of Engagement', In Musharbash and Berbar (eds.) "Ethnography & the Production of Anthropological Knowledge" pp. 123-132, ANU E Press, 2011. 査読有

⑭ 窪田幸子 2011 「アボリジニ・アーティストの誕生」松井健、名和克郎、野林厚志編『グローバル化とく生きる世界』339-387 頁、昭和堂、2011 年、査読無

⑮ 窪田幸子 2010 「アボリジニにとってのオーストラリア北部アーネムランドを中の一」立川武蔵・安田喜憲監修、熊谷圭知・片山一道編『朝倉世界地理講座 15 オセアニア』165-180 頁、朝倉書店、査読無

⑯ Kazuyasu Ochiai, 2007, "Non ho nulla di speciale da dire": La violenza invisibile del cogito ergo es nel dialogo interculturale." Quaderni Asiatici 79:109-128. 査読有

[学会発表] (計 23 件)

- ① 本多俊和  
日本先住民 Ainu の現状、民族学系専門演講、国立政治大学原住民族研究中心、2011/03/14
- ② 本多俊和  
世界の先住民、日本の先住民、公開シンポジウム「今、アイヌであること」～共に生きるための政策をめざして～、日本学術会議地域研究委員会多文化共生分科 2011/03/06

③ スチュアート ヘンリ

先住民族・気候変動・人類学者：北のフィールドからのメッセージ、多民族研究学会 (MESA) 第 15 回全国大会、2010/12/18

④ スチュアート ヘンリ

イヌイトとアリュートの「近代化」：皮舟と犬ぞりを事例にして、第 2 回 国際常民文化研究機構国際シンポジウム、神奈川大学国政常民文化研究機構、2010/12/12

⑤ 本多俊和

社会科教科書の記述から、公開シンポジウム「教育のなかの多文化共生、日本学術会議地域研究委員会多文化共生分科会、2010/10/30

⑥ 本多俊和

アイヌ民族と博物館の共同にむけて、国立民族博物館共同研究会シンポジウム、北海道大学学術交流会館、2009/12/06

⑦ スチュアート ヘンリ

アイヌ文化と博物館、シンポジウム 地域と文化の創造、第 57 回全国博物館大会、2009/10/01

⑧ スチュアート ヘンリ

カナダ・イヌイト今昔物語：イヌイト・アートを手がかりに、カナダ大使館、2009/09/25

⑨ スチュアート ヘンリ

政治のフォーラムとしての博物館、日本文化人類学会、京都大学、2008/ 6/ 1

⑩ スチュアート ヘンリ

北方地域の博物館と民族文化、北海道立北方民族博物館、2007/11/3, 4

⑪ スチュアート ヘンリ

マイノリティ言語：内外の比較、日本言語政策学会、2007/ 6/17

⑫ 大村敬一

Dual Way of Life: Indigenes in Contemporary Inuit Society and Its Politico-Economic Significance in the Globalized World. Workshop 'Negotiation of Indigenous Identities' (National Museum of Ethnology, Japan) 2010. 12. 04-05.

⑬ 大村敬一

「<社交の技術>としての芸術：<芸術>と<伝統文化>を超えて」第 25 回北方民族文化シンポジウム「現代社会と先住民文化：観光・芸術から考える②」（網走市立オホーツク・文化交流センター）2010. 10. 17.

⑭ 大村敬一

「変身の美学：イヌイトと北西海岸先住民のアートの世界」第 378 回みんぱくゼミナール（特別展関連）（国立民族学博物館講堂）2009. 11. 21.

⑮ 大村敬一

「イヌイトにとってのグローバリゼーション：二つのネットワーク・システムの相克」東京外国語大学 AA 研フィールドサイエンス・コロキウム「グローバリゼーションと人類学の可能性」（東京外国語大学 AA 研 304 号室）2009. 11. 14.

⑯ 大村敬一

「<知識>に抗する<仕事>：グローバリゼーションを超える想像力」日本文化人類学会第 43 回研究大会分科会「人類学的方法はグローバリゼーションを穿ちうるか？」（大阪国際交流センター）2009. 05. 31.

⑰ 大村敬一

「新たな統治のあり方を目指して：カナダ・ヌナヴト準州のイヌイトの挑戦」北海道大学アイヌ・先住民研究センター講演会（北海道大学）2009. 04. 03.

⑱ 大村敬一

「人類イヌイト化計画：解放と連帯のための美学」京都人類研究会 1 月例会（京都大学・稲盛財団記念館 3 階中会議室）2009. 01. 16.

⑲ 大村敬一

Inuit Qaujimaqatunqangit (Inuit Traditional Knowledge) as Indigenous Governance system. The International Workshop 'The limits to the recognition of distinctive rights for indigenous people' (Australia National University, Canberra), 2008. 08. 28.

⑳ 村敬一

「イヌイトは何になろうとしているのか？：カナダ・ヌナヴト準州の IQ 問題にみる先住民の未来」日本文化人類学会第 42 回研究大会分科会「先住民とは誰か？」（京都大学）2008. 06. 01.

㉑ Kazuyasu Ochiai

2007, "Imágenes de la nación a través de los álbumes fotográficos a comienzos del siglo XX", Imágenes, educación y nación: un diálogo japonés-mexicano en torno al

día de la independencia mexicana, El Colegio de México, Mexico City, 2007/11/06

〔図書〕(計9件)

- ①大村敬一2011 『グローバル化の人類学：争いと和解の諸相』(本多俊和、大村敬一編) 東京：放送大学教育振興、244頁。
- ②足羽與志子、落合一泰、他11名、2010、『平和と和解の思想をたずねて』、大月書店、360頁
- ③大村敬一2009 『極北と森林の記憶：イヌイトと北西海岸インディアンのアート』(齋藤玲子、岸上伸啓、大村敬一編) 京都：昭和堂、154頁。
- ④岸上伸啓 編著、『開発と先住民』、明石書店、2009
- ⑤宮地尚子、落合一泰、他8名、2008、『性的支配と歴史—植民地主義から民族浄化まで』、大月書店、338頁
- ⑥岸上伸啓編、『北アメリカ先住民の社会経済開発』、明石書店、2008
- ⑦山下晋司、落合一泰、他16名、2007、『観光文化学』、新曜社、208頁
- ⑧窪田幸子、『先住民とはだれか』、2007、世界思想社、352頁
- ⑨岸上伸啓、『カナダ・イヌイトの食文化と社会変化』、世界思想社、2007、

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

スチュアート ヘンリ (本多俊和)

(HONDA SHUNWA)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：50187788

### (2) 研究分担者

大村 敬一(OMURA KEIICHI)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：40261250

### (3) 連携研究者

常本 照樹(TSUNEMOTO TERUKI)

北海道大学・大学院・法学研究科・教授

研究者番号：10163859

落合一泰 (OCHIAI KAZUYASU)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：50212337

佐々木利和 (SASAKI TOSHIKAZU)

北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・

教授

研究者番号：80132702

岸上 伸啓(KISHIGAMI NOBUHIRO)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・

教授

研究者番号：60214772

窪田 幸子(KUBOTA SACHIKO)

広島大学・大学院・総合科学研究科・准教授

研究者番号：80268507

葛野浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：90205089

室 淳子(MURO JYUNKO)

神戸大学・学内共同利用施設等・講師

研究者番号：20437453